

4月統一地方選挙に立候補を予定されている方々への 公開質問とその回答結果

—— 「北山エリア」に関わって ——

府立植物園、府立大学、旧総合資料館跡地など貴重な文化教育施設を擁する「北山エリア」が将来どのようなになるのか、地域住民にとって大きな関心事になっています。

4月の統一地方選挙はその意味でも大切な選挙であると考え、わたしたちは北区、左京区の立候補予定の方々に、「北山エリア」についてのお考えを以下のように質問することにしました。

2023年3月1日

京都府立植物園整備計画の見直しを求める会(なからぎの森の会) / 植物園の環境と景観を守る北区の会

質問項目

- ① 京都府が2020年12月に公表した「北山エリア整備基本計画」について
② 京都市が2021年4月に公表した「都市計画マスタープラン地域まちづくり構想 ⑰ 北山文化・交流拠点地区」について
- それぞれ、【賛成、反対、どちらでもない、わからない】から選び、その理由を200字以内でお書きください。

回答結果一覧は以下のとおりです。投票のご参考にしてください。
なお、投票日は4月9日(日) 期日前投票は4月1日~8日です。

【北区】 府会

津田 ひろや(自由民主党), 畑本 義允(日本維新の会), 平井 斉己(府民クラブ(立憲民主党))
の各氏からは回答がありませんでした

浜田 良之 (日本共産党) ①に対して、反対 ②に対して、反対

北山エリアの整備計画は、北山エリアを文化・環境ゾーンとして整備し、府立大学の老朽化した校舎や体育館を建て直す計画でしたが、西脇知事になったとたん、2千人しかいない府立大学の敷地内に1万人のアリーナを建設することをはじめ、北山エリアを観光とにぎわいの地域にする計画に代わりました。府立植物園にも深刻な影響を与え、府立大学の学生の授業やサークル活動も制限されることになる、本末転倒の計画です。

昨年の6月議会の代表質問で、知事は私の質問に、「北山エリア整備基本計画の内容について京都市に説明を行うなど、情報共有をはかってきた。昨年4月、基本計画の内容を北山文化交流拠点地区の地域まちづくり構想として京都市都市計画マスタープランに位置づけられた」と答弁しました。まさに、北山エリア整備基本計画は、府・市合作の計画であり、「京都市の地域まちづくり構想」にも反対です。

【北区】 市会

菅谷 浩平(京都党(維新)), 兵藤 しんいち(公明党), 谷口 みゆき(自由民主党), 山本 恵一(自由民主党)
の各氏からは回答がありませんでした

井坂 博文(日本共産党) ①に対して、反対 ②に対して、反対

そもそも北山の当該地区は、緑豊かで閑静な住宅街であり、そこに植物園があり、自然と府立大学の学生と地域住民が共生している街です。今回の整備基本計画はその関係性を根本から崩壊させるものです。しかも植物園の主役は植物であり、人間ではありません。学生数2000人の府立大学に、1万人規模のアリーナは不要です。そのアリーナのための誘導路を植物園につくるなどもってのほかです。大反対です。

片桐 直哉(立憲民主党) ①に対して、賛成反対どちらでもない ②に対しても、どちらでもない

もともとの京都府の計画では、植物園がテーマパークのようになってしまわないか、懸念を感じました。多くの市民意見を受けて、最終的な計画が、植物園本来の価値を大事にしたものになってほしいと思っています。植物園や大学やその他の施設について改修時期がきていることは確かですが、すべてを一括りで開発し、それにより問題が解決するかのような計画にならないよう、合意形成をはかるべきと考えます。

マスタープランには、当該地区の開発及び建造物の規制緩和を盛り込み、都市計画見直しをして、開発を促進させようとしている京都市の姿勢があります。この地域まちづくり構想を破棄しない限り、京都市は北山エリアの破壊に手を貸すこととなります。したがって反対します。

基本的に、府の計画をそのまま位置づけたものになっているので、府の計画の具体化や見直しにあわせて、適宜見直されていくものと考えています。

玉本 なるみ(日本共産党) ①に対して、反対 ②に対して、反対

府立大学内に巨大アリーナを建設する計画は、学生や地域住民にとって、学校・地域環境悪化につながる大規模事業であり、賛成できない。しかも、市民に対して、詳細な計画案について、十分な説明がないまま進めようとしていることも問題。隣接の植物園への日照の影響や植物園内を通路にすることへの問題もある。植物園を守ってほしいという市民の声は多くあり、植物園への影響についての見解も示されていないことも重大な問題である。

巨大アリーナ建設やシアターコンプレックスは、都市計画上建設できない建築物なのに、都市計画マスタープランに位置付けたことが問題。さらに、位置づけたということは、建設できるように、規制緩和をしようとしていることであり、二重の問題がある。

【左京区】分は裏面にあります

【左京区】 府会

石田 宗久(自由民主党), **北岡 千はる**(府民クラブ(国民民主党)) の各氏からは回答がありませんでした

光永 敦彦 (日本共産党) ①に対して、反対

②に対して、反対

私自身、議会でも白紙撤回の立場から何度も西脇知事と論戦してきました。この計画は、長年にわたり、地域住民や府民が守り育ててきた府立植物園や府立大学、旧府立資料館など、貴重な地域に「にぎわい」を持ち込み、1万人アリーナ建設をはじめ、府民共有の財産を大本からゆがめてしまうものです。しかも府民説明会を2年も開かず、15万筆を超える白紙撤回等を求める署名や府民の声をまともに聞かず、応えない姿勢は極めて重大です。

この計画は、京都府の「北山エリア整備基本計画」(案)を、そのまま都市計画に位置付けたものです。そもそも「北山エリア整備基本計画」について、西脇知事は「あくまで案」だと主張し続けています。まだコンセプトも含め、府民や市民の反対があり、また何も確定していないにも関わらず、府市一体で都市計画にまで踏み込んだ計画を変更することは問題です。しかも、高さ規制なども特例的に緩和する可能性もあり、重大です。

【左京区】 市会

宇佐美 賢一(京都党(維新)), **岡野 たかしげ**(自由民主党), **くまざわ 真昭**(公明党), **でした さくらい 泰広**(自由民主党), **しまうち 研**(立憲民主党), **豊田 恵美**(無所属) の各氏からは回答がありません

井崎 敦子 (無所属) ①に対して、反対

②に対して、反対

まず、住民不在の中で立てられた計画案であること。そして、アリーナやにぎわいゾーンは「お金を払わないと利用できない」施設で府民にとって大切な公共空間を営利目的の場に変えてしまうだろうこと。なにより、貴重な植物園の環境に大変な負荷となるだろうことが反対の理由です。

2020年の北山エリア整備基本計画と何ら変わらない内容であり15万筆もの反対署名の重みを鑑みているとはとても思えません。計画はすべて白紙にし、府民・住民の声を聞いて構想することを求めたいです。

隠塚 功(国民民主党) ①に対して、賛成反対どちらでもない

②に対しても、どちらでもない

北山エリアは豊かな自然に包まれ、閑静な住宅地があるにもかかわらず、ショッピングや飲食、文化施設などの集客エリアも備えている特異なエリアです。その特異性を人口減少下においても維持していくには、魅力を高める事が必要であり、大きな方針としては理解します。ただ、ワークショップなどにより、意見集約を図って計画づくりをすべきだったと考えており、今回、植物園の計画が見直されたことは良かったと思っています。

このマスタープランは「北山エリア整備基本計画」に基づいたプランとなっており、府市が連携する意味では理解しますが、「北山エリア整備基本計画」の策定段階で、より市民を巻き込んだ計画づくりをすべきだったと考えている立場から、賛成でも反対でもありません。

鍛冶 ちか (無所属) ①に対して、賛成反対どちらでもない

②に対しても、どちらでもない

当該地区が文教地区として在ることを望む。住民が相当数声を上げている。更なる対話を以て慎重に計画を検討すべき。

特にまず「多様な人々が集まり交流する」まちづくりが住民の期待する地域の将来像であるか、という点について対話を重ね検討する必要があると考える。

加藤 あい (日本共産党) ①に対して、反対

②に対して、反対

北山エリア整備基本計画については白紙撤回を求める署名が16万筆に迫る状況になっており、住民合意がないことは明らかです。1万人のアリーナ建設は植物園を破壊し、府立大学学生の教学環境改善とも両立しません。スタジアム・アリーナ改革指針で成長産業化で民間事業者の利益を拡大するための事業には賛同できません。

河村 りょう (地域政党京都党) ①に対して、反対

②に対して、反対

一部反対。北山エリアの施設を改修や、土地活用には賛成だが、植物園の、特に芝生広場を野外ステージやイベント会場にすること、半木の道に手を加えることには反対である。広場は、親子がのびのびと自然を感じられる貴重な空間として保全すべきと思うし、美しい半木の道は市民の散歩道としても、観光地としても完成されている。集客目的でいたずらに景観を損なう必要はないと考える。

とがし 豊 (日本共産党) ①に対して、反対

②に対して、反対

15万筆の署名の重み受けとめ、植物園をつぶす「北山エリア整備基本計画」は撤回すべき。「半木の道と連続性も持たせる」とした開発、「北山通側との連続性を持たせ」るための「商業空間」創出のための大量の樹木伐採は本末転倒です。府大内に「1万人収容」商業アリーナはいらない。学生や大学人の声から出発した府大の再整備を。旧資料館跡への「宿泊」「賑わい施設」の建設は撤回すべきです。住民参加で一から出直しを。

ひぐち 英明 (日本共産党) ①に対して、反対

②に対して、反対

「北山エリア整備基本計画」では、市民と専門家のみなさんの努力でつくりあげてきた、そして世界的にも評価されている府立植物園、そして、京都府立大学の学生のための体育館を犠牲にし、一部の企業が儲けをあげるための施設を、府と市が一体となつてつくりようとしていることは許せません。その上、多くの住民や専門家のみなさんから反対の声が寄せられているのですから、事業計画を撤回すべきです。

「⑩北山文化・交流拠点地区」は、住民が反対している京都府の当初計画そのままであり、断固反対です。とりわけ、当該エリアは、高さ制限や容積率、アリーナ・宿泊業禁止などの厳しいルールを市民が守ることで「美しく静かで落ち着いた住環境」が創出されてきた場所です。京都市が、京都府のルール違反を「特例」として追認することは、住民の努力を踏みにじる暴挙です。京都市に対し、白紙撤回するように求めています。

回答①でお答えしたように、「北山エリア整備基本計画」そのものを撤回すべきと考えていますが、さらに、京都市の都市計画上許されていない「アリーナ」や「シアターコンプレックス」などが書かれた計画をマスタープランに書き込んだことは、行政自ら都市計画のルールを踏み破るものです。このマスタープランを根拠に、規制を緩和するようなことがあれば、二重にルールを破るものであり、絶対に行うべきでないと考えます。